



令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立久美浜高等学校 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	京都府立久美浜高等学校・丹後緑風高等学校全学年生徒（140名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 行事名（令和3年度オリンピック・パラリンピック教育推進事業に係る講演会） ② その他（カヌー部との合同練習）
4 目標 (ねらい)	(1) 多様性を尊重し、共生社会の実現に貢献できる人材を育成する。 (2) 自己肯定感を高め、自己の可能性に挑戦する姿勢を養う。
5 取組内容	(1) 7月14日（水） カヌー実習 （1・2年生全クラス対象） 2年ぶりに実施し、生徒全員がカヌーを体験した。カヌーの楽しさと難しさを実感する機会となった。  

(2) 7月7日(水)～7月15日(木)

オリンピック・パラリンピック直前学習 (全校生徒対象)

「体育」の各講座の授業で実施した。

「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料」によりオリンピック・パラリンピックについて学んだ。

また、講演会の講師である辰己博実氏を特集した、NHKの「道徳ドキュメント」(「あきらめたことをあきらめない」というタイトルで2014年1月24日に放送)という番組のDVDを視聴した。

(3) 7月19日(月)～28日(水)

久美浜湾カヌー競技場でのスペイン、ポルトガル両オリンピック代表チーム事前合宿

本校カヌー部が代表チームの練習を見学する機会を得、オリンピック選手の練習を間近で体感することができた。



(4) 11月2日(火)

① **講演会** (全校生徒対象)

演題 「あきらめたことをあきらめない」

講師 辰己 博実 氏 (パラカヌースプリント日本代表)



② **合同練習** (カヌー部生徒対象)



(5) 11月2日(火)

講演会事後学習 (全校生徒対象)

講演会を振り返り、アンケート・感想を記入した。

6 主な成果

(1) **オリンピック・パラリンピック事前学習**

- ① 「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料」を視聴して、新たに得た知識について(生徒回答)
- ・オリンピック33競技、パラリンピック22競技
 - ・新競技5種目追加
 - ・IOCとIPCが互いに協力しあっていること。
 - ・以前に日本でオリンピックが行われていたこと。
 - ・ドーピングの撲滅を訴える。
 - ・女性参加
 - ・日本オリンピックの父、嘉納治五郎という人物のすごさ。
 - ・五輪マークは世界の五大大陸を表していること。
 - ・オリンピックとパラリンピックは違う組織だということ。

・パラリンピックは負傷した兵士を元気づけるために開催されたこと。

② 「オリンピック・パラリンピックに関する指導参考映像資料」を視聴しての感想（抜粋）

- ・オリンピック・パラリンピックがより楽しみになりました。たぶん前例にないであろうこのような状況下でのオリンピック・パラリンピックで選手、主催者は大変なことが多いと思いますが、だからこそ世界中が明るくなれて、「開催して良かった。」とみんなが思えるオリンピック・パラリンピックになればいいなと思います。
- ・当たり前のようにしているオリンピック・パラリンピックも今日の学習で多くの人々が関わって行動したことで開催できていることがわかった。そして、日本の選手も今までに様々な歴史や結果を残していてすごいな思いました。また車いすに乗っている人や障害のある人もスポーツができるというのはとても素晴らしいことだと思いました。
- ・ソフトボールが追加されて嬉しいです。ソフトボールが追加されたので真剣に観ようと思いました。オリンピック・パラリンピックのことについてたくさん知れて良かったです。最初に開催された年、オリンピックの父、差別をはね除けてきたことなどを知れて良かったです。他にももっと知りたいと思ったのでこれから調べてみようと思いました。
- ・オリンピック・パラリンピックはただの競技会ではなくて、世界の協調や人を勇気づけるなど、たくさんの大きな意味があることを知れた。メダルを獲得して涙する選手や、国が一つになって喜んだり、スポーツの力ってすごいんだなと改めて感じた。せっかく日本で開催されるので、これまでより、もっと注目して観戦したい。

(2) 講演会事後学習

講演を聴いた感想（抜粋）

- ・今日の講演会を聴いて一番に思ったのは、人と人の間に壁を作らないのが大切なことだということです。相手も自分達より少し苦しいかもしれないけれど同じ人間だから同じ人間として対応したい。もう一つはやりたいことをする、それをするには何でもチャレンジが必要だと思いました。この二つを大切にしていきたいです。
- ・今までずっとやりたいことをやろうとしても諦めたり、何もせずに終わったりしてやりたいことができませんでした。ですが今回の講演を聴いてやりたいことにまっすぐぶつかって頑張りたいと思いました。
- ・怪我をした瞬間や下半身が動かなくなった時は絶望的だったと思うけれど、今はパラリンピックに出て、人生いろいろ変わってよく頑張ったんだなと思った。やっぱり頑張れば未来は変えられると思った。応援される人になりたいです。
- ・「壁を作ってほしくない」「みんなと同じように接してほしい」「特別扱いはいいや」という言葉が印象的でした。
- ・辰己さんの講演を聴いて、やりたいことはやってみたらいいんだということ学びました。スノーボードでの事故で、下半身が動

かなくなってしまうけれど、世界で誰もやったことのないチェアスノーボードを自分で製作して滑ってみたり、パラリンピックを目指してカヌー競技に挑戦したりと、その姿は本当にかっこいいなと思いました。もしも僕が辰己さんの立場だったらリハビリはするけれど、そこまで諦めてしまうと思うので、辰己さんは本当にすごい方なんだと実感しました。

- やりたいことをやることで、応援してくれる仲間ができたり、人に喜んでもらえたりすると気づきました。また、何回か障害のある方の話を聞いてきましたが、何か大変な経験をされた方の方が輝いているように私は見えます。辰己さんもそうでした。けがで今までやっていたことをあきらめるのではなく、できるように続けているというのは、とてもすごいことだと思いました。
- 今の私がまずやることは「やりたいことを見つけて、それに向かって一生懸命取り組むことです。そして応援してくれる仲間をつくることも忘れないようにしていきたいです。
- 辰己さんが最初入場された時のオーラがすごかった。辰己さんの講演ですごく勇気づけられた。私はやりたいことがあっても色々考えすぎて、周りの目とか気にして、できないことが多い。けれど今日の講演で考えることは大事だけど、とりあえず挑戦してみようと思った。私は高校に入ってから吹奏楽部に入ったから周りの人より上手じゃない。何回も諦めようと思ったけれど、今日でまた頑張ろうと思えた。ひとつのことだけではなく、たくさんさんの事に挑戦されている辰己さんをお手本にして私も生きていこうと思う。
- 辰己さんは「できないことよりできることの方が多い」とおっしゃった。私はまだやっていないだけで私が決めつけているだけで、本当はできることはたくさんあると思う。それを見つけていきたい。今日は自分の考えを変える良いきっかけになった。
- けがをして脚が動かなくなってしまうても、いろんな事に挑戦されている姿がすごいと思った。あれも出来ない、これも出来ないではなく、車いすで自由に動けるようになった！とかまたカヌーに挑戦してみよう！という前向きな姿勢がかっこ良かった。「たまたまの達人」と言われたという話があったけれど、まずは自分が動き出さなければ、偶然すら起きないし、ためになる出会いもないと思うので、私も受け身にならず自分が動きだそうと思った。支えてくれる仲間がいて、仲間が辰己さんの出来るようになることを楽しんで喜んで、次の挑戦もしてみようという考えになるのは辰己さんの前向きな行動に勇気をもらっているからなんだろうと思った。

(3) 感想から窺える成果

- ① オリンピック・パラリンピック（特にパラリンピック）への関心が高まった。
- ② 障害者への理解が深まり、多様性を尊重し共に支え合って生きる社会を実現しようとする意欲が高まった。
- ③ 自分の可能性に挑戦しようという気持ちが高まった。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1) 本校は全国大会や国際大会への出場選手を輩出するカヌー強豪校であり、また、毎年7月に1年生全員対象のカヌー実習を行っているため、主にカヌー競技をとおしてオリンピック・パラリンピック教育の推進を図りたいと考えた。</p> <p>(2) 事前学習を行い、関心を高めた上で講演会を実施した。</p> <p>(3) 競技実績だけでなく、本校生徒に必要なメッセージを伝えていただけるかどうかという点を重視して講師を選定した。</p>
8 主な課題等	<p>オリンピック・パラリンピックは世界中で猛威をふるっている新型コロナウイルス感染症の影響で延期となり、過去に例を見ない厳戒態勢の中で行われた。本校においては、京丹後市にスペインとポルトガルのカヌー代表チームが事前合宿に訪れて身近にオリンピックを感じられた。特にカヌー部員や指導者は同じ水域で同時にトレーニングができ、素晴らしい経験を積むことができた。</p> <p>辰己氏の講演会では、パラリンピック競技の内容もさることながら、人としての生き方を多く学ぶことができ、多くの生徒達が自分の生き方について真剣に見つめ直すことができた。</p> <p>この事業で得た感動や知識を今後の人生で活かしていけるかが今後の課題である。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>(1) 障害者や高齢者とのスポーツをとおした交流(カヌーなど)</p> <p>(2) 地域のスポーツイベントへの積極的参加</p>